

鉄道係員に対する暴力行為の主な事例・取組みについて(平成25年度)

1. 暴力行為の主な事例

月	3月	曜日	火曜日	時間帯	夜
場所	ホーム	加害者の年齢	70代	飲酒の有無	有
ホーム上で倒れていた旅客を、駅員が救護している最中、突如、当該旅客が暴れ出し、殴る、蹴る、噛みつくといった暴行を受けた。 (全治2週間)					

月	7月	曜日	月曜日	時間帯	深夜
場所	改札	加害者の年齢	30代	飲酒の有無	不明
料金が不足している利用者呼び止めた際、膝蹴りを受けた上、目に指を突き立てられるなどの暴行を受けた。後日、家族の謝罪もあり、示談となった。 (全治7日)					

月	6月	曜日	金曜日	時間帯	夜
場所	ホーム	加害者の年齢	不明	飲酒の有無	不明
ホーム上で、利用者同士がケンカしていたため、駅係員が仲裁に入ったところ、興奮している利用者から暴行を受けた。 (全治5日間)					

月	11月	曜日	金曜日	時間帯	深夜
場所	車内	加害者の年齢	40代	飲酒の有無	有
終着駅で車内を点検している際、座席に眠り込んでいた旅客がいたため声をかけたところ、突然、激昂し、腹部を殴打されるなどの暴行を受けた。					

月	1月	曜日	日曜日	時間帯	日中
場所	ホーム	加害者の年齢	70代	飲酒の有無	不明
<p>ドアが閉まりかけているところに、駆け込んだ利用客を駅員が制止したところ、殴る、蹴るの暴行を受けた。警察に被害届を提出し、後日、示談となった。</p>					

月	1月	曜日	金曜日	時間帯	日中
場所	コンコース	加害者の年齢	50代	飲酒の有無	有
<p>コンコースで横たわっている男性がいるとの通報を受け、現地に向かった。当該男性は泥酔しており、車いすに乗せてタクシー乗り場まで送ることとなったが、移動中に、突如、叫びながら暴れ、暴行を受けた。 (全治7日間)</p>					

2. 暴力行為の抑止に関する主な取組み

- ① 警察官・ガードマンによる巡回の実施
- ② 所轄の警察署に依頼し、教習等で護身術訓練に参加
- ③ 「駅構内における粗暴事犯防止官民合同会議」への参加やイベント開催
- ④ 暴力行為防止ポスターの掲出等の啓発活動
- ⑤ 防犯カメラ作動中のステッカーの貼付
- ⑥ 刺す又、カラーボール、防犯ブザー等の防犯グッズの配備
- ⑦ 負荷により外れるネクタイの着用